

## はじめに

現代社会は、急速な技術革新や社会構造の変化、価値観の多様化が進む中で、大きな転換期を迎えています。とりわけ、生成AIをはじめとするデジタル技術は、私たちのくらしや、学びの在り方にも大きな影響を与えており、教育の分野においてもその可能性と向き合うことが求められています。こうした時代を生きる子どもたちには、知識や技能の習得に加え、情報を主体的に選択・判断し、適切に活用する力、さらには、他者と協働しながら新たな価値を創造していく力が一層重要となっています。

交野市においても、こうした社会や教育をとりまく状況を踏まえ、義務教育9年間を一つの連続した学びと捉える「9年間教育交野スタイル」を推進してきました。小学校段階から中学校段階への円滑な接続を重視し、学びの系統性や指導の一貫性を大切にしながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることで、児童生徒一人ひとりの可能性を引き出す教育をめざしています。

令和7年度に交野市教育センターが受けた相談件数は1,486件でした。近年、児童生徒一人ひとりの背景や課題が多様化・複雑化する中で、個々の状況に応じたきめ細やかな支援の重要性が一層高まっています。教育センターでは、学校をはじめ、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門職と緊密に連携し、児童生徒や保護者の思いに丁寧に寄り添いながら、課題の把握と解決に向けた支援を行ってきました。また、いじめや不登校への対応をはじめ、学校を取り巻く課題が複雑化する中で、組織的かつ多面的な支援体制の構築が求められています。令和7年度より「スクールロイヤー活用事業」を実施し、学校からの相談に対して法的視点からの指導助言を行う体制を整えることで、学校現場が直面する複雑な課題に対してより適切かつ組織的な対応が可能となるよう支援を行っています。今後も、各学校における組織的な生徒指導体制の構築と多職種連携を進め、児童生徒が必要とする支援により早くつなぎ、いじめ・不登校の未然防止、早期発見、早期対応に努めていきます。

また、教育センターでは「学び続ける教職員の育成」をめざし、教職員が常に学び続け、専門性を高めることで、子どもたちの学びを深めるとともに、子どもたちの可能性を最大限に引き出すことができるよう、経験の浅い教職員を対象としたフレッシュャーズサポート事業や5年めの教職員を対象とした授業充実支援事業等を継続し、教職員のキャリアステージに応じた研修の実施や、校内研修を充実させるための支援等を行っています。また、令和7年度には交野市教育フォーラムにおいて、講師を招聘し「今、求められる支援教育ーインクルーシブ教育システムを通した共生社会の形成に向けてー」をテーマに、インクルーシブ教育システムの視点から、今求められる支援教育の在り方や、実践的な取組み事例等について教職員と共有しました。今後も、様々な視点から交野市における9年間教育の充実を図っていきます。

児童生徒支援ルーム「グレープ」では、子どもに寄り添い、学習活動や交流活動を通じて、社会的自立をめざす支援を継続しています。令和7年度は、教科学習だけでなく、交野市給食センターでの食育学習をはじめ、交野市教育委員会事務局内において軽スポーツや体験活動等を実施しました。今後も児童生徒の社会的自立をめざした取組みを進めていきます。

このように、教職員の指導力・資質向上や教育相談をはじめとする生徒指導体制の充実等、教育センターに求められる役割はより一層大きくなっています。今後も、研修等の内容や相談機能をはじめとする生徒指導体制をより一層充実させ、皆様方のご協力を得ながら、より信頼される教育センターとして、交野市の教育の発展に寄与できるように努めてまいります。

令和8年4月